

日本語が公用語として定められている世界唯一の憲法 —パラオ共和国アンガウル州憲法—

ダニエル・ロング

今村 圭介

1. 問題の所在

世界の数ある憲法の中で、日本が公用語として明確に定められているものは一つしかない。驚くことにそれは日本国憲法ではなく、西太平洋の島国パラオのアンガウル州の憲法である。

本稿で取り上げる課題は日本でまったく知られていないわけではなく、「パラオで日本語が公用語となっている」という話題は聞かれることがある。しかし、完全に間違っている情報から誤解を招く観点がずれている情報まで様々な不適切なものがある。インターネットの書き込みから分かるように、日本人はこの課題に関心を持っているものの、アンガウル州憲法の具体的な文言およびその作成に至る歴史的経緯を研究している人は少ない（例外として法学者の山上博信(2012)の研究が挙げられる）。本稿の狙いは、実際に憲法に書かれている文言を引用し、それを日本語に訳すとともに、憲法制定関係者への聞き取り調査を基に信頼性の高い記述を行うことである。さらに、その憲法を生み出した歴史的、社会的、言語的背景を考察し、なぜそういう実態が生じたかを検討する。

2. アンガウル州憲法の言語に関する記述

パラオ共和国のアンガウル州憲法に見られる言語に関する記述は第12条である。ここでアンガウル州憲法（英語版）の写しを載せる（図1）。

図1の第12条（Article XII）を日本語訳すると表1の通りになる。なお、1項で言う”language of the state”「州の言語」と2項で言う”official languages”「(州の) 公用語」がどう違うかは、明記されていないこともあるが、これでアンガウル州の公用語(official language)の一つとして日本語が定められていることが明らかである。

<p>CONSTITUTION OF THE STATE OF ANGAUR</p> <p>expend money for any purpose in excess of the amount of funds for which they were appropriated.</p> <p>ARTICLE XII</p> <p>GENERAL PROVISIONS</p> <p>(A): <u>Official Languages.</u></p> <p>Section 1. The traditional Palauan language, particularly the dialect spoken by the people of Angaur State, shall be the language of the State of Angaur. Palauan, English and Japanese shall be the official languages.</p> <p>Section 2. The Palauan and English versions of this Constitution shall be equally authoritative; but in case of conflicts in interpretation or meaning of certain of its provisions, the English version shall prevail.</p>
--

図 1. アンガウル州憲法の写し

表 1 アンガウル州憲法 言語に関する条項の日本語訳

<p>アンガウル州憲法</p> <p>第 12 条</p> <p>一般条項</p> <p>(A) : 公用語</p> <p>1 項. パラオの伝統言語、特にアンガウル州民の間で話されている方言はアンガウル州の言語として定める。パラオ語と英語、日本語は公用語とする。</p> <p>2 項. この憲法のパラオ語版と英語版は等しく成文であるが、ある条項において訳や意味の不一致が生じたら英語の本文による。</p>
--

3. パラオの様々な憲法に見られる言語に関する記述

アンガウル州について考察するために、パラオ共和国全体の状況を把握する必要がある。ここでパラオ共和国にある複数の憲法において言語に関する記述がどのようなものであるかを検討する。パラオには 16 の州があり、それぞれには憲法がある。国家憲法を入れるとパラオには計 17 の憲法がある。以下でアンガウル州憲法以外の 15 の州憲法

およびパラオ共和国憲法における言語の記述を概観する。なお、言語に関する記述がまったくない州憲法（Ngaraard, Ngardmau, Ngatpang）があった。パラオのそれぞれの州はパラオ語版以外にも英語版が公開されているので、以下の表2で英語版から抜粋する。順番は（パラオでよく使われている）北から南への地理的順位である（図2参照）。なお、解釈（それぞれの部分の関連性や重要部分の強調など）と関係する可能性があることから、表2で原文の下線や中央寄せ、右寄せ（インデント）、改行、空白・空行、大文字と小文字、太文字の使用などはできる限り忠実に再現している。

表2 パラオ共和国憲法、および各州の憲法の言語に関する条項

<p style="text-align: center;">THE CONSTITUTION OF THE REPUBLIC OF PALAU</p> <p style="text-align: center;">ARTICLE XIII</p> <p style="text-align: center;">GENERAL PROVISIONS</p> <p><u>Section 1.</u> The Palauan traditional languages shall be the national languages. Palauan and English shall be the official languages. The Olbiil Era Kelulau shall determine the appropriate use of each language.</p> <p><u>Section 2.</u> The Palauan and English versions of this Constitution shall be equally authoritative; in case of conflict, the English → Palauan version shall prevail.</p>
<p style="text-align: center;">CONSTITUTION OF THE STATE OF KAYANGEL</p> <p style="text-align: center;">ARTICLE XV</p> <p style="text-align: center;"><u>MISCELLANEOUS PROVISIONS</u></p> <p>Section 2. This Constitution shall be written in English and Palauan. In case of conflict, the English version shall prevail.</p>
<p style="text-align: center;">CONSTITUTION OF THE STATE OF NGARCHELONG</p> <p style="text-align: center;">ARTICLE XIV</p> <p style="text-align: center;">TWO VERSIONS</p> <p>SECTION 1. PREVAILING VERSION</p> <p>This Constitution of Ngarchelong State shall be published in both English and Palauan, but in case of conflict the English version shall prevail.</p>

<p style="text-align:center">CONSTITUTION OF THE STATE OF NGIWAL</p> <p style="text-align:center">ARTICLE XI</p> <p style="text-align:center">GENERAL PROVISIONS</p> <p>Section 1. Palauan and English shall be the official languages of Ngijwal State.</p> <p>Section 2. The Palauan and English versions of this Constitution shall be equally authoritative. In case of conflict the English version, except the Palauan words used in the English version of this Constitution, shall prevail, provided that the traditional interpretation in this Constitution shall not be altered.</p>
<p style="text-align:center">ONSTITUTION OF THE STATE OF NGEREMLENGUI</p> <p style="text-align:center">ARTICLE XII</p> <p style="text-align:center">GENERAL PROVISIONS</p> <p>Section 1. This Constitution of the State of Ngeremlengui is written in Palauan and translated in English. The Palauan and English versions shall be equally authoritative; in case of conflict, the Palauan version shall prevail.</p>
<p style="text-align:center">CONSTITUTION OF THE STATE OF MELEKEOK</p> <p style="text-align:center">ARTICLE XII</p> <p style="text-align:center"><u>GENERAL PROVISIONS</u></p> <p>Section 1. This Constitution of the State of Melekeok was written in the Palauan language and translated into English. In case of a conflict in the translation between the (2) languages, the Palauan version shall prevail.</p>
<p style="text-align:center">CONSTITUTION OF THE STATE OF NGCHESAR</p> <p style="text-align:center">ARTICLE II</p> <p style="text-align:center">GENERAL PROVISIONS</p> <p><u>Section 2.</u> This Constitution is in Palauan and English. In case of conflict, the Palauan version shall prevail.</p>
<p style="text-align:center">CONSTITUTION OF THE STATE OF AIMELIIK</p> <p style="text-align:center">ARTICLE XI</p> <p style="text-align:center">GENERAL PROVISIONS</p> <p>Section 1. The Palauan and English versions of this Constitution are equally authoritative; in case of conflict the Palauan version shall be controlling.</p>
<p style="text-align:center">CONSTITUTION OF THE STATE OF AIRAI</p> <p style="text-align:center">ARTICLE XII</p> <p style="text-align:center">GENERAL PROVISIONS</p> <p>Section 3. The Palauan and English versions of this Constitution shall be equally authoritative; in case of conflict, the English version shall prevail.</p>

<p style="text-align: center;">CONSTITUTION OF THE STATE OF KOROR ARTICLE X GENERAL PROVISIONS</p> <p>Section 1. LANGUAGE. The Palauan and English versions of this Constitution shall be equally authoritative; in case of conflict, the Palauan version shall prevail.</p>
<p style="text-align: center;">CONSTITUTION OF THE STATE OF PELELIU ARTICLE XI GENERAL PROVISIONS</p> <p>Section 9. The Palauan and English version shall be equally authoritative; in case of conflict, the English version shall prevail.</p>
<p style="text-align: center;">CONSTITUTION OF THE STATE OF SONSOROL ARTICLE XI GENERAL PROVISIONS</p> <p>Section 1. English and Sonsorolese (the dialect spoken on each island in Sonsorol State) are the official languages of the State. The English and Sonsorolese versions of this Constitution shall be equally authoritative; in case of conflict, the English version shall prevail.</p>
<p style="text-align: center;">CONSTITUTION OF THE STATE OF HATOHOBELI ARTICLE XII GENERAL PROVISIONS</p> <p>Section 1. Language. The Hatothobeli traditional language shall be the official language of the state.</p> <p>Section 2. Conflict in Language. The Hatothobeli and English version of this Constitution shall be equally authoritative, but in case of conflict, the English version shall prevail.</p>

様々な憲法で言語と関わる記述を3種類に分けることができる。(1)「憲法の使用言語」：例えば、Kayangel 州憲法には「本憲法は英語およびパラオ語によって記される。」

(2)「優先言語」：アンガウル州憲法では次のように英語が優先されることを明記している。「この憲法のパラオ語版と英語版は等しく成文であるが、ある条項において訳や意味の不一致が生じたら英語の本文による。」(3)「公用語」。表3でその情報を整理する。

表3 パラオの16州の憲法にみられる言語の扱い

州	条(項)	憲法の使用言語	優先言語	公用語	承認(裁可)の年月
Palau	13(1,2)	パラオ語, 英語	英語 ↓ バ語	国家語=パラオ 様々な伝統言語、 公用語=バ語, 英語	79.4.2 (79.8.21 改定)
Kayangel	15(2)	英語, パラオ語	英語	記述無し	83.9.13
Ngarchelong	14(1)	英語, パラオ語	英語	記述無し	82.4.14
Ngaraard	/	言語記述無し、英語版のみか	/	記述無し	82.11.12
Ngardmau	/	言語記述無しだがパラオ語版と英語版がある	/	記述無し	84.10.1
Ngiwal	11(1,2)	パラオ語, 英語	英語	パラオ語, 英語	83.4.11
Ngeremlengui	12(1)	パラオ語, 英語	バ語	記述無し	83.1.6
Melekeok	12(1)	パラオ語, 英語	バ語	記述無し	83.10.30
Ngatpang	/	言語記述無し、英語版のみか	/	記述無し	81.12.27
Ngchesar	2(2)	パラオ語, 英語	バ語	記述無し	81.10.13
Aimeliik	11(1)	パラオ語, 英語	バ語	記述無し	82.10.31
Airai	12(3)	パラオ語, 英語	英語	記述無し	90.2.19
Koror	10(1)	パラオ語, 英語	バ語	記述無し	83.4.13
Pelilieu	11(9)	パラオ語, 英語	英語	記述無し	82.9.11
Angaur	12(1)	パラオ語, 英語	英語	州言語=アンガウル方言、公用語=バ語, 英語、日本語	82.10.8
Sonsorol	13(1)	英語, ソンソロール語	英語	英語, ソンソロール語	83.10.10
Hatohobei	12(1,2)	ハトベイ語, 英語	英語	ハトベイ語	83.11.13

Ngaraard 州と Ngatpang 州の憲法には言語に係する記述は一切ない。Ngardmau 州は多くの州と同様、「第 12 条 一般条項」が含まれており、そこには第 1 項～3 項まで記されているが、言語に関する記述はそこにも、憲法の他の項にも出て来ない。

Ngardmau 州憲法には「憲法の使用言語」に関する記述がないものの、他の多くの州と

同様、英語版とパラオ語版の両方が図書館で保管されている。一方、Ngaraard 州憲法および Ngatpang 州の憲法はパラオ語版が見つからない。筆者がパラオ共和国最高裁判所にあるシンイチ・イケサケス記念法律図書館（Singichi Ikesakes Law Library）およびパラオ短期大学付属図書館（Palau Community College Library）そしてコロール州図書館（Koror State Library）の三箇所を探しても、英語版しか出てこなかった。

4. アンガウル州憲法の社会言語的背景

1982 年 10 月 8 日にアンガウル州議会に集まった 15 人の議員（男性 13 人、女性 2 人）はアンガウル州憲法に署名した。議会書記および法務顧問の二人が証人となった（表 4）。当時の年齢は 29～44 歳であった。

筆者は憲法の公用語に日本語が含まれた経緯について次の関係者から聞き取りを行った。1982 年の州憲法制定議会の議員を務めた Matias Toshiwo Akitaya（2012/07/28 調査）、同じく議員だった Victorio Uherbelau（2013/03/20）、憲法制定議会の書記を務めた Nicholas Takashi Takami（2013/03/17）、アンガウル小学校図書館長 Sabeth Vereen（2012/07/28）、調査当時の国会議員だった Horace Rafael（2012/07/31）、アンガウル州知事 Maria Gates-Meltel（2011/09/19）、の 6 人であった。得られた情報を以下のようにまとめることができる。

1. パラオ語に日本語起源の借用語が多いことはよく知られているが、とりわけ政治、経済、行政などに関する多くのパラオ語は日本語起源のものである。つまり、これらの分野において日本語は必要不可欠であった。
2. 故 Carlos Hiroshi Salii 弁護士（元 EU 大使）によれば「投票権を行使するのに日本語が必要であった」（山上博信の聞き取りによる情報）。図 3 は 1996 年 9 月 24 日の sengkio（選挙）の投票用紙で、kohosia（候補者）の氏名がアルファベットと片仮名の両方で記されていることが分かる。
3. 州憲法が書かれた時の長老たちは、ほぼ全員日本語が流暢に話せた（ロング&今村 2013）。憲法の署名はカタカナ表記が多い。その例として図 4 のカヤンゲル州憲法を参照されたい。
4. アンガウル島では戦後育ちの人ですら日本語を少ししゃべれる人が複数いた（ロン

グ&今村（近刊）。Victorio Uherbelau は“Speaking Japanese was hutsu”（日本語をしゃべることは普通だった）と語った。

5. アンガウル島は戦後にも日本との強い関係が保たれたため、日本語が使われることもあった。1940年代なかばから1950年代なかばまでの約10年間、燐鉱石採掘の産業によって多数の日本人が島で暮らしていた。
6. 1960～70年代にも日本人来島者がいた。ほとんどはかつて（戦前・戦後）アンガウルで暮らした経験のある人々であった。
7. 戦前にサイパンの人々がアンガウル島で生活していた（図5の地図には「サイパン村」が明記されている）。戦後にチュークの人々が労働者としてアンガウルに滞在していた。そのため、戦前・戦後ともに日本語は日本人と話す時に使うものだけではなく、非母語話者同士の共通言語という重要な役割を果たしていたのである。
8. 上記の1, 2, 3はパラオ全土と共通していた事情であるが、4, 5, 6, 7はパラオ全体ではなく、アンガウル州だけの特殊な事情であった。

再び各州の憲法の文言（表5）に戻ると、2つの重要な事実がある。まず、それぞれの憲法の文言に共通性があり、同じ雛形を出発点にしたということである。裏を返せば、それぞれの州の文言に相違があることは、各州憲法制定議会でその雛形を丸写しにしたのではなく、自ら書き直したりしたということである。両方の事実が重要である。

アンガウル州憲法制定会議の議員であり、署名した1人である Victorio Uherbelau 氏によると、けっして米国など外国人に憲法を作ってもらったわけではなく、パラオ市民自身が勉強を重ねて自ら作った。国連の援助を受けて、それぞれの州の中堅の市民がミクロネシア連邦など複数の国へ行き、その憲法の状況を調べた。アンガウル州憲法を作る際に、他の州やパラオ共和国憲法を丸写しにしたのではなく、ローカルの事情を考慮して、日本語を公用語にすると判断したのである。

以上のような情報を得ることができたが、直接憲法制定会議に出席していた人を含め、多数の関係者から話が聞けたにも関わらず、日本語を公用語にしたという明確な理由が得られなかった。「いや、なんとなく公用語に日本語を含めた」という消極的な証言しかなかった。最初は、これで調査が失敗したと考えていたが、聞き取りを進めているう

ちに、「特別な理由もなかったほどアンガウル島民にとって日本語が身近な存在だった」ということが明らかになってきた。言い換えれば、憲法制定当時のアンガウル島の環境では、アメリカ統治下での英語使用と同様に日本語使用が自然であり、公用語への選定に特別な理由がないこと自体が大きな理由となっているのである。

表4 アンガウル州憲法の著名者・憲法制定議会の構成員

議長 Andres Uherbelau*
副議長 Belerio U. Pedro
三席 Augusto Naruo
議員
Ucherbelau (酋長) Masao Gulibert
Ucherremasech Naoru Ramon*
Ucherkemul Tomei Oscar
Renguul Orrenges Thomas
Matias T. Akitaya
Joseph Antipas
Emiko Salii Kaiich*
Selina Ramon*
Victorio Uherbelau*
Elias K. Takeshi*
Norbert Blau
Mario Gulibert*
議会書記 Nicholas T. Takami (立証人)
法務顧問 Carlos Hiroshi Salii (証人)

Victorio Uherbelau (2014 年 12 月 8 日私信) によると、アンガウル州憲法立案者 15 人のうち、現在御頭在であるのは表 4 で* の付いた 7 人である。

日本語が公用語として定められている世界唯一の憲法

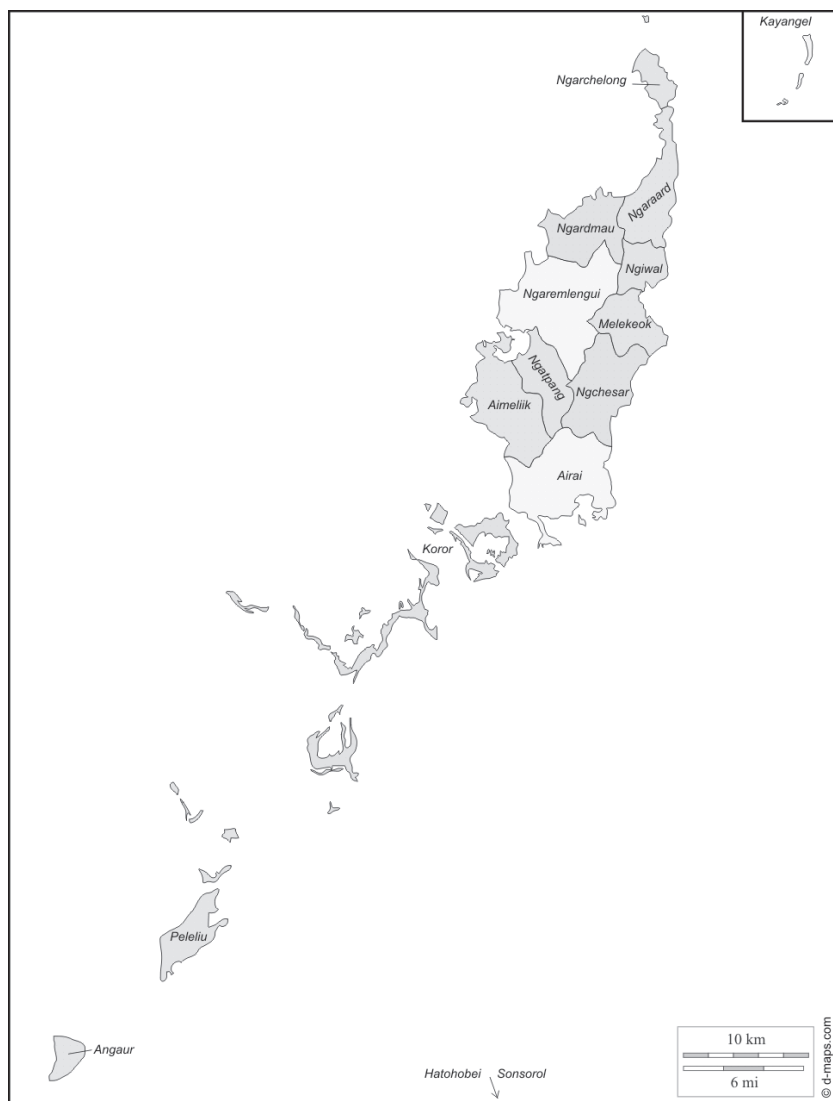


図2 パラオ共和国の州


A	B	C
REPUBLIC OF PALAU		SEPTEMBER 24, 1996
OFFICIAL PRIMARY ELECTION BALLOT PRESIDENT (4 YEARS) <u>OMESODEL</u>		
<p>KEMO MELILT ERA DI TANG (1) EL KOHOSIA. KECHORSENGII TIAL DERBENGAIS <input type="radio"/> EL ROKIR, AL SEKUM ENG NGARNGII A WRITE IN EL KOHOSIA ER KAU, EKECHIRSENGII SEL DERBENGAIS <input type="radio"/> E LUCHESII A NGKLEL A KOHOSIA ER KAU ER SEL RAIYING (LINE) RA WRITE IN. AL SEKUM KELMUCHES A NGKLIR AR TERUNG EL KOHOSIA, ENG MODIAK EL LOCHERENGALL A SENGKIO ERE KAU. MAL SEKUM EKEMECHEWID ENG SEBECHEM ELOLENGIIT RA BECHES EL BALLOT.</p>		
		
1 <input type="radio"/> YUTAKA M. GIBBONS ユタカ キッホッス	2 <input type="radio"/> KUNIWO NAKAMURA クニオ ナカムラ	
3 <input type="radio"/> JOHNSON TORIBIONG ションソントソビヨン	<input type="radio"/> _____ WRITE-IN	

図3 候補者の氏名が片仮名で記されている1996年の投票用紙

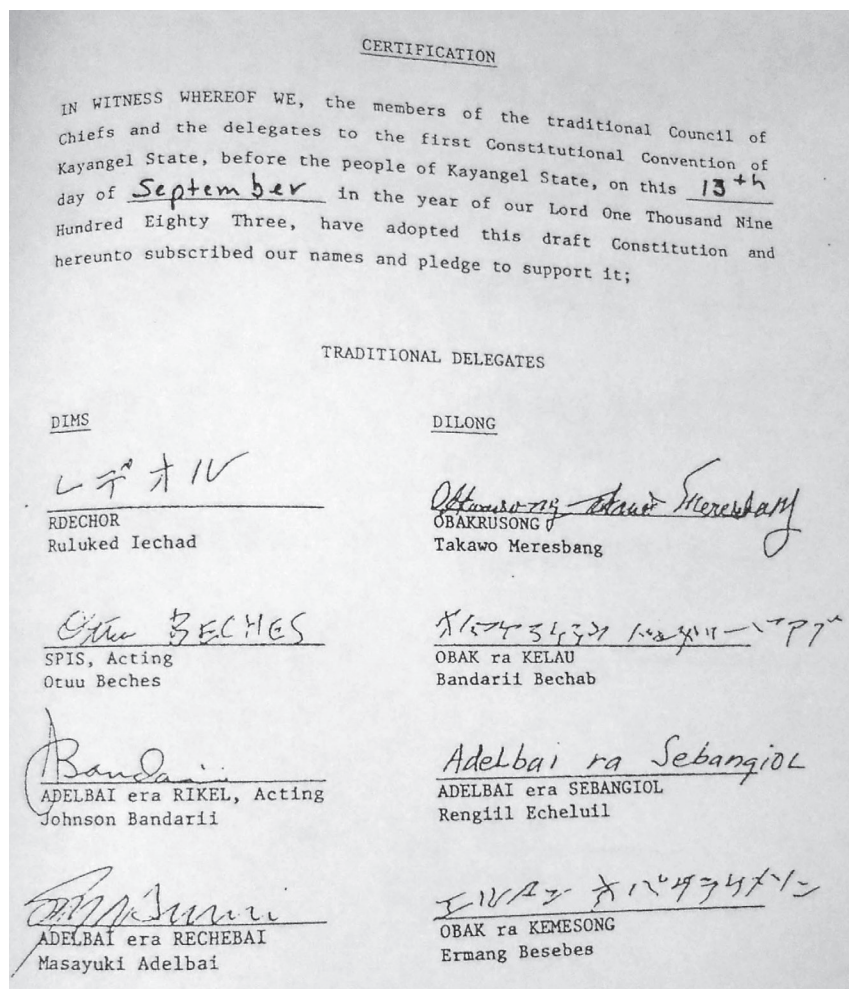


図4 カヤンゲル州憲法のカタカナ表記による署名

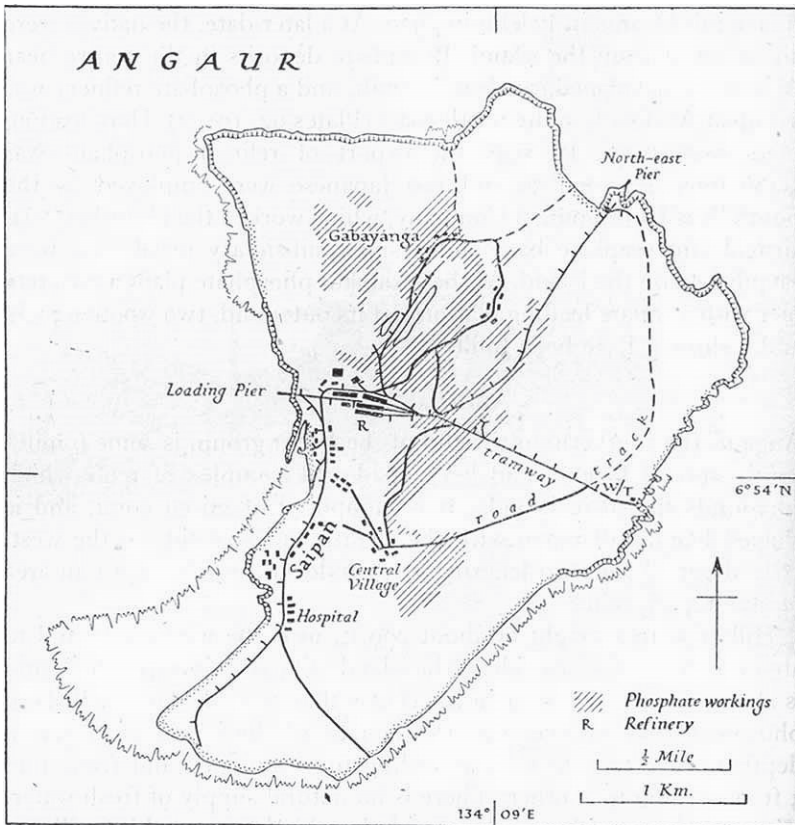


図5 「サイパン村」が記されているアンガウル地図

表5 各憲法の言語関係に関する条項の文言の比較

Palau	The Palauan traditional languages shall be the national languages. Palauan and English shall be the official languages.	The Olbiil Era Kelulau shall determine the appropriate use of each language.	The Palauan and English versions of this Constitution	shall be equally authoritative;	in case of conflict,	the English → Palauan version	shall prevail.
Kayangel		This Constitution shall be written in English and Palauan.			In case of conflict,	the English version	shall prevail
Ngarchelong		This Constitution of Ngarchelong State shall be published in both English and Palauan,			but in case of conflict	the English version	shall prevail
Ngiwal	Palauan and English shall be the official languages of Ngiwal State.		The Palauan and English versions of this Constitution	shall be equally authoritative.	In case of conflict	the English version, except the Palauan words used in the English version of this Constitution,	shall prevail, provided that the traditional interpretation in this Constitution shall not be altered.
Ngeremlengui		This Constitution of the State of Ngeremlengui is written in Palauan and translated in English.	The Palauan and English versions	shall be equally authoritative;	in case of conflict,	the Palauan version	shall prevail.
Melekeok		This Constitution of the State of Melekeok was written in the Palauan language and translated into English.			In case of a conflict in the translation between the (2) languages,	the Palauan version	shall prevail.
Ngchesar		This Constitution is in Palauan and English.			In case of conflict,	the Palauan version	shall prevail.

Aimeliik			The Palauan and English versions of this Constitution	are equally authoritative;	in case of conflict	the Palauan version	shall be controlling.
Airai			The Palauan and English versions of this Constitution	shall be equally authoritative;	in case of conflict,	the English version	shall prevail.
Koror			Language. The Palauan and English versions of this Constitution	shall be equally authoritative;	in case of conflict,	the Palauan version	shall prevail.
Peleliu			The Palauan and English version	shall be equally authoritative;	in case of conflict,	the English version.	shall prevail
Angaur	The traditional Palauan language, particularly the dialect spoken by the people of Angaur State, shall be the language of the State of Angaur.	Palauan, English and Japanese shall be the official languages	The Palauan and English versions of this Constitution	shall be equally authoritative,	but in case of conflicts in interpretations or meaning of certain of its provisions,	the English version	shall prevail
Sonsorol	English and Sonsorolese (the dialect spoken on each island in Sonsorol State) are the official languages of the State.		The English and Sonsorolese versions of this Constitution	shall be equally authoritative;	in case of conflict,	the English version	shall prevail.
Hatohobei	Language. The Hatohobei traditional language shall be the official language of the state.		Conflict in Language. The Hatohobei and English version of this Constitution	shall be equally authoritative,	but in case of conflict,	the English version.	shall prevail

参考文献

- Long, Daniel, Keisuke Imamura, with Masaharu Tmodrang (2013) *The Japanese Language in Palau* (Sanada, Shinji: Supervising Editor). Tokyo: National Institute for Japanese Language and Linguistics. online at: http://www.ninjal.ac.jp/research/project/a/creole/files/creole_Palau.pdf
- Wahl, Cecilia Hendricks (2000). *Number One Pacific Island*. Bloomington, IN: Woodcrest Publishing.
- 山上博信(2012)「パラオ共和国アングウル州憲法で『日本語』が公用語の一つとされた事情」移民政策学会 2012 年度冬季大会
http://iminseisaku.org/top/conference/121208_yamagami.pdf
- ロング、ダニエル、今村圭介 (2013)「パラオで話されている日本語の実態 ～戦前日本語教育経験者と若年層日本滞在経験者の比較～」『人文学報』473: 1-30
- ロング、ダニエル、今村圭介 (近刊)「パラオ国アングウル島における日本語使用」

謝辞

この調査に協力した山上博信および小西潤子（敬称略）に御礼申し上げます。本研究はJSPS 科研費基盤研究（C）24520502「ネイティブ不在地域で発生した新型接触言語—『アングウル島日本語』の調査研究—」（研究代表者ダニエル・ロング）の助成を受けたものである。

The authors would like to thank the following for their help in researching this paper: Victorio Uherbelau, Toshiwo Akitaya, Sabeth Vereen, and Maria Gates-Meltel. We would like to dedicate this paper to the late Horace Rafael (1959 - 2013), governor of Angaur 2000-2009 and Angaur delegate to Olbiil era Kelulau 2009-2013, who helped us understand his island home and charmed us with his humor.

The only Constitution in the world which establishes Japanese as an Official Language: The Constitution of the Palauan state of Angaur

Daniel LONG, Keisuke IMAMURA

Abstract

This paper attempts to clarify the position of Japanese as one of the official languages of the state of Angaur in the Pacific island nation of Palau, as established in that state's constitution (Fig. 1). Interviews by the authors with multiple Angaurians involved in the past and current politics of the state as well as research into texts on historical and social factors revealed the following significant facts. (1) The Palauan language in general has been influenced greatly by Japanese especially in the fields of politics and administration in which Japanese borrowings are common (Long and Imamura 2013). (2) At the time the Angaur Constitution was composed (1982) the elders of Palau were fluent in the Japanese language. Fig. 4 shows that indeed three signers of Kayangel's state constitution affixed their signatures in the Japanese *katakana* script. (3) Even some Angaurians born after the war can speak some Japanese. (4) The Japanese language was still used on Angaur even after World War II due the presence of Japanese workers in a Phosphate Mining operation which lasted for a decade, until the mid 1950's. (5) From the 1960's and 70's, Angaur was the destination of many Japanese who had lived on the island before or after the war. (6) Prior to the War Angaur had been the home of a population from Saipan (Fig. 5). Post war workers from Chuuk lived on Angaur. Japanese was the lingua franca between these visitors and native Angaurians. (7) Although factors 1 and 2 apply to Palau as a whole, factors 3, 4, 5 and 6 are unique to Angaur. Post-war Palau was a member of the United States-governed Trust Territory of the Pacific Islands, but Palauans did not simply have their constitutions handed to them by American advisors. On the contrary, interviews (2013/03/20) with Talobak Victorio Ucherbelau, one of the framers of the Angaur State Constitution and Angaur delegate to the 1979 and 2005 Palau (national) Constitutional Conventions revealed specific examples of reservations being voiced by U.S. officials. Furthermore, a comparison of the phrasing regarding language usage in the national and various state Constitutions (Table 5) reveals major differences in content as well as minor differences in phrasing; further evidence of the careful consideration and deliberation that went into the composition of these constitutions.

